蘚類 *Haplocladium angustifolium* ノミハニワゴケの蒴柄の再生が，10倍に濃度を高めた Burgeff 培養液で著しく高率で起ることが見出された。蒴柄の再生は，まず蒴柄切片の若い上端部で起こり，続いて古い基部で起こる場合とそうでない場合とがある。基部のみで再生が見られた例はなかった。原糸体は，蒴柄組織の内部の柔組織状細胞から発生し，まずこの細胞の肥大が起こり，次いでこの肥大細胞から分化する。

□台湾植物誌編輯委員会： **Flora of Taiwan, I**（台湾植物誌，第1巻，蕨類・裸子植物）現代関係出版社（台北）1975. A5とB5の中間の判，562ページ，色彩口絵4ページ，英文。US＄22。中国国家科学委員会と米国 National Science Foundation とによる中・美（すなわち米）科学合作計画に基づいて，台湾の維管束植物のフロラ誌を作る編集委員会が1972年に発足した。委員は5名で，委員長の李恵林と小山鉄夫の両氏が米国側，De Vol・劉棠瑞・黄増泉の3氏が中国側である。それぞれ持ち前の部門を担当，ほかに多数の専門家を動員して事業を進め，昨年6月に原稿が揃ったという。何しろ植物群によって研究の進み方や方法がまちまちで，全体としての統一が非常にむずかしかったと緒言に書いてあるが，これだけの短期間にこのように立派なものを完成させたことは非常な努力であったことと想像される。植物学の研究にはもちろん農学や教育などの方面にも大いに役立つ書物である。

全5巻，それに文献集と総索引の1巻が付属する予定で第1巻はシダ植物と裸子植物である。シダ植物は前記の De Vol 氏が最も多くを受け持ち，それに謝萬權ら数氏がそれぞれ得意の群を分担，日本から大悟法滋氏が参加（イノデ属）している。シダ植物の大分けは普通のやり方どおりマツバラン綱・ヒカゲノカズラ綱・トクサ綱・シダ綱の4綱に，シダ綱は途中の階級を設けずに直ちに23科に分類する。この分類法はコープランド氏などに比べてワラビ科・オシダ科・ウラボシ科などがそれぞれ数科に分かれる近ごろのやり方の一つであるが，中国高等植物図鑑ほどには細分してなく，また科の配列順も違う。多分この方式は独特な今回初めてのものらしく，興味ある分類系のようにみえる。シダ植物は全部で37科・158属・561種（*Grammitis* の新種1を含む）で，属の取扱いは細かい（特にヒメシダ科など）。科・属・種にはそれぞれ記載があり，それらの間には検索表，各種（変種がある場合には各変種）には学名の出典（新組合せ若干あり），主要文献，中国名，異名，分布，台湾内の産地と採集者名など，さらに1ページ大の凸版図が169個あって各属につき1種以上の図を用意している。この図は Taiwania で見たことのあるものも若干あるが，ほとんどが今回描きおろしのもので実によく描けており詳しい部分図をもつている。このような工合でまことに使いやすく，わかりやすいフロラ誌になっている。裸子植物は50ページ，委員長の李恵林氏が担当，8科・16属・25種が収められ，全種について図がある。 （伊藤　洋）